

2022年5月2日

パルシステム東京生活協同組合様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会のアフガニスタンにおける支援活動にご理解と多大なるご援助を賜りまして、ありがたく厚く御礼申し上げます。

ペシャワール会は1983年の結成以来、中村哲医師の活動を支援して参りました。

貴組合をはじめ多くの方々のご支援により、中村医師の逝去後も現地PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）の医療・灌漑・農業事業は、変わることなく続いています。

活動地であるアフガニスタンでは、干ばつが進行する中、2003年に着工した総合的農村復興計画「緑の大地計画」により16,500haの耕地を安定灌漑し、65万人の生活が維持されています。

2021年は国連機関をはじめ多くの国際団体が過去最大級の干ばつの危機を訴えていました。しかしながら、昨年8月の政変以降アフガニスタンに経済制裁が課され、その結果、干ばつによる飢餓にあえぐ人々が更に困窮する状況が生じています。そのような中、様々な制約がありましたが、皆様からのご厚志を現地に届け、事業を継続し、1,800家族（約18,000人）に緊急食糧支援を行なうことができました。

これからもペシャワール会は全力で現地を支えて参りますので、末永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,864,697円はPMSの活動に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2021年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

《2021年度プロジェクト報告》

1. 医療事業

2021年度も前年度に引き続き、アフガニスタン東部山岳地にあるPMSのダラエヌール診療所で、24時間対応できる診療体制を維持しています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子健康保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導、ポリオ等のワクチン接種や結核治療も進められています。地域に根ざした診療活動は、住民からの信頼を集めています。

アフガニスタンにおいても新型コロナウイルスがまん延する中、ダラエヌール診療所では衛生指導を積極的に行なうなど、地域の感染拡大防止対策を講じてきました。

現在アフガニスタンの公営医療機関は経済制裁の影響により、医療システムが崩壊の危機に直面しています。そのような中、PMSのダラエヌール診療所には遠方からも患者が訪れ、地域医療の要となっています。（年間診療数約46,000人）

2. 灌漑事業

2021年度は以下の事業を手がけました。堰や用水路などの建設に関しては、日本側の技術支援チームと連携をとりながら慎重に事業を進めています。

〈マルワリード I 堰・用水路改修〉

2019 年度から 4 年計画でマルワリード I 堰・用水路（2010 年完工）の改修工事を実施しています。取水門門口の増設と堰の改修、用水路の部分的拡幅と床面の再ライニング（水路床覆工）などを予定。今年度はライニングを 2km 区間行ない、現在 7km 地点まで完了しました。全長 27km のマルワリード用水路流域では耕作地が広がっています。

〈バルカシコート堰〉

中村医師の逝去後、初めて PMS の職員たちだけで建設したバルカシコートの堰が 2022 年 2 月末に完成しました。2022 年秋の完工まで、護岸工事と主幹用水路の工事を残すのみとなりました。この堰の灌漑面積は 230ha、3 カ村 12,000 人が安心して生活できるようになります。

〈維持管理・普及〉

中村医師が「自分の後継者は用水路」と語っていたように、堰や用水路が流域住民の手によって維持管理されていくことを目標にしています。2021 年には PMS 活動地で住民たちが自発的に用水路の浚渫作業を行なうなど、維持管理に向けた動きが出てきています。

PMS 方式灌漑事業の基本設計をアフガン各地に普及するため、中村医師が作成を手掛けていた『PMS 方式灌漑事業ガイドライン』を、多くの関係者の努力で 2021 年末に完成することができました。

3. 農業事業

試験農場としてマルワリード I 用水路最終地点のガンベリ沙漠に約 230ha を確保し、穀類や野菜、果樹を中心に様々な栽培と畜産を試みてきました。2021 年度は開墾を進め、日本側の農業や養蜂の専門家にも助言を仰ぎつつ、自給自足に向けた取り組みを進めています。植樹は 130 万本を超え、大地を緑にし、荒々しい気候変動を少しでも和らげる役割を果たしています。

4. 食糧支援

PMS/ペシャワール会はアフガニスタン東部のナンガラハル州で、緊急の食糧支援を行なっています。2022 年 1 月 23 日から 2 月 5 日にかけて、州内 6 郡の、栄養失調児や妊産婦のいる 1,800 家族（約 18,000 人）を対象に、PMS の医師が検診をして、1 か月分の食糧（小麦、米、豆類、食用油）を手渡しました。今後も同様に飢餓状態の著しい地域の食糧配給を計画しています。

現在アフガニスタンでは、これまでにない規模の干ばつが全土で進行しています。PMS の活動が地域の人々の助けとなるよう、2022 年度も引続き医療・灌漑用水路・農業事業を継続し、どこにも逃れようのない人々が安心して生活できるよう中村哲医師の意志と共に努力して参ります。